

## 光によるスイッチング

有機合成の立場から見た光の利用方法に関する最近の動向を以下に紹介します。

最近、反応を外部刺激によって制御することを目指した研究が着目されています。温度、圧力、超音波、pH変化、金属の配位、酸化還元、光などを外部刺激とし、これらの刺激に伴う大きな立体的・電子的構造の変化に応じて反応を制御することを目指すものです。外部刺激によって反応の ON / OFF といった反応速度を制御する反応が主流となっていますが、中にはキラリーティーの逆転や、生成物の変化を伴うものも知られています。また、温度による溶媒との相互作用の変化によって、ゲル化状態と溶液状態をスイッチングし、生成物や触媒の回収を容易にするといった新たな利用手段も報告されています。・・・